

弟子屈町国民健康保険 データヘルス計画中間評価

令和3年3月

弟子屈町

1 データヘルス計画中間評価にあたって

政府の「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)において、すべての健康保険組合は、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」を作成し実施することになりました。

データを活用して科学的にアプローチすることで事業の実効性を高めることが「データヘルス計画」ねらいです。

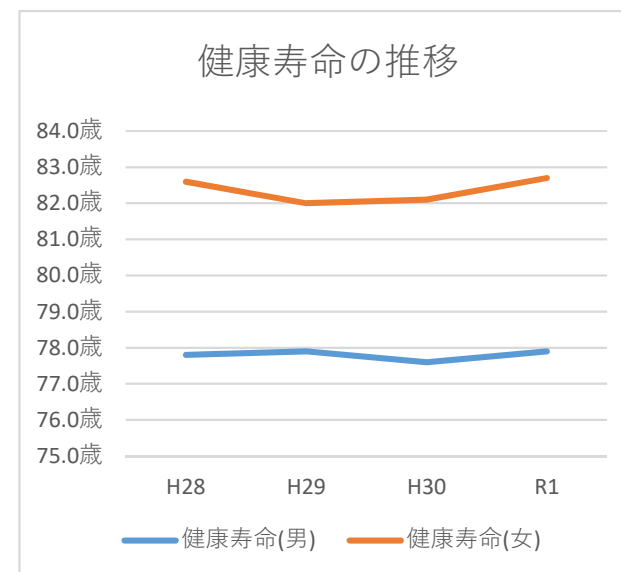
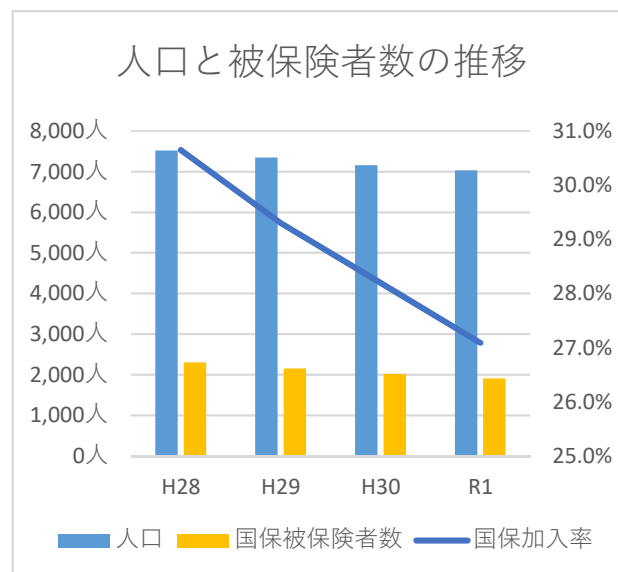
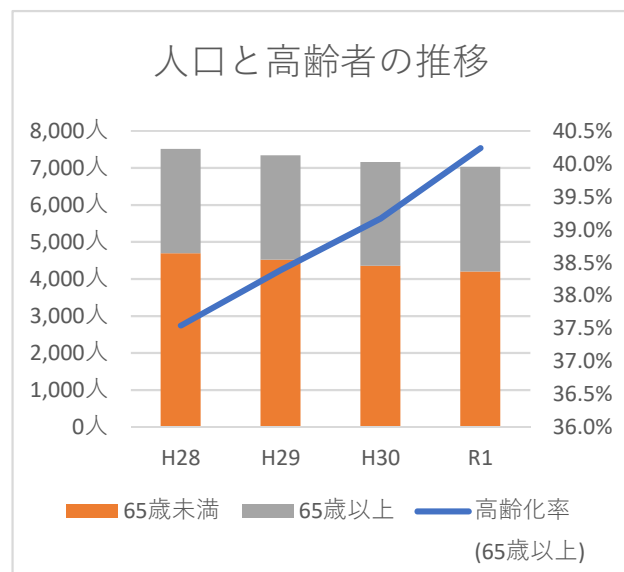
弟子屈町国民健康保険においても、平成30年度から令和5年までを計画期間とする「弟子屈町国民健康保険データヘルス計画」を策定して、これまで実施してきました。令和2年度は6か年計画の中間年にあたり、事業の実施状況等を評価することとなっており、これまでの実施結果や目標の達成状況を中間評価としてまとめました。

2 現状把握

(1)人口等の推移

	人口	65歳以上	高齢化率 (65歳以上)	国保被保険者数	国保加入率	健康寿命(男)	健康寿命(女)
H28	7,514人	2,821人	37.5%	2,303人	30.6%	77.8歳	82.6歳
H29	7,341人	2,818人	38.4%	2,151人	29.3%	77.9歳	82.0歳
H30	7,156人	2,803人	39.2%	2,018人	28.2%	77.6歳	82.1歳
R1	7,028人	2,828人	40.2%	1,904人	27.1%	77.9歳	82.7歳

※健康寿命：平均自立期間（要介護2までの期間）



(2)医療費等の状況と推移

【疾病大分類別】

◆医療費が高い疾病

	H28レセプト	医療費	H29レセプト	医療費	H30レセプト	医療費	R1レセプト	医療費
1位	循環器系の疾患	115,437千円	循環器系の疾患	125,176千円	新生物(腫瘍)	131,118千円	循環器系の疾患	128,766千円
2位	新生物(腫瘍)	115,262千円	新生物(腫瘍)	120,984千円	循環器系の疾患	119,859千円	新生物(腫瘍)	120,338千円
3位	筋骨格系及び結合組織の疾患	70,832千円	筋骨格系及び結合組織の疾患	87,600千円	筋骨格系及び結合組織の疾患	90,812千円	筋骨格系及び結合組織の疾患	68,291千円
4位	内分泌、栄養及び代謝疾患	66,392千円	内分泌、栄養及び代謝疾患	67,899千円	内分泌、栄養及び代謝疾患	67,089千円	内分泌、栄養及び代謝疾患	61,412千円
5位	消化器系の疾患	54,795千円	消化器系の疾患	49,817千円	腎尿路生殖器系の疾患	58,269千円	腎尿路生殖器系の疾患	58,326千円

◆患者数が多い疾病

	H28レセプト	患者数	H29レセプト	患者数	H30レセプト	患者数	R1レセプト	医療費
1位	内分泌、栄養及び代謝疾患	1,107人	内分泌、栄養及び代謝疾患	1,069人	内分泌、栄養及び代謝疾患	1,032人	内分泌、栄養及び代謝疾患	961人
2位	消化器系の疾患	1,077人	消化器系の疾患	1,010人	呼吸器系の疾患	980人	消化器系の疾患	882人
3位	循環器系の疾患	1,063人	循環器系の疾患	1,003人	消化器系の疾患	955人	循環器系の疾患	869人
4位	呼吸器系の疾患	1,063人	呼吸器系の疾患	972人	筋骨格系及び結合組織の疾患	936人	呼吸器系の疾患	868人
5位	筋骨格系及び結合組織の疾患	1,025人	筋骨格系及び結合組織の疾患	972人	神経系の疾患	932人	筋骨格系及び結合組織の疾患	829人

◆患者一人当たりの医療費が高額な疾病

	H28レセプト	医療費	H29レセプト	医療費	H30レセプト	医療費	R1レセプト	医療費
1位	新生物(腫瘍)	209千円	周産期に発生した病態	321千円	新生物(腫瘍)	263千円	新生物(腫瘍)	262千円
2位	周産期に発生した病態	158千円	新生物(腫瘍)	239千円	周産期に発生した病態	209千円	妊娠、分娩及び産じょく	186千円
3位	精神および行動の障害	113千円	循環器系の疾患	125千円	循環器系の疾患	129千円	循環器系の疾患	148千円
4位	循環器系の疾患	109千円	精神および行動の障害	94千円	腎尿路生殖器系の疾患	107千円	精神および行動の障害	123千円
5位	妊娠、分娩及び産じょく	98千円	腎尿路生殖器系の疾患	90千円	精神および行動の障害	106千円	腎尿路生殖器系の疾患	119千円

【疾病中分類別】

◆医療費が高い疾病

	H28レセプト	医療費	H29レセプト	医療費	H30レセプト	医療費	R1レセプト	医療費
1位	その他の悪性新生物(腫瘍)	38,958千円	糖尿病	40,482千円	腎不全	41,957千円	腎不全	43,666千円
2位	糖尿病	37,842千円	その他の悪性新生物(腫瘍)	34,437千円	糖尿病	39,496千円	糖尿病	36,815千円
3位	高血圧性疾患	35,980千円	高血圧性疾患	33,914千円	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	35,254千円	その他の悪性新生物(腫瘍)	34,538千円
4位	その他の消化器系の疾患	27,978千円	その他の神経系の疾患	31,937千円	その他の悪性新生物(腫瘍)	32,905千円	その他の神経系の疾患	33,595千円
5位	腎不全	26,465千円	その他の消化器系の疾患	28,808千円	その他の神経系の疾患	31,164千円	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	32,467千円

◆患者数が多い疾病

	H28レセプト	患者数	H29レセプト	患者数	H30レセプト	患者数	R1レセプト	患者数
1位	高血圧性疾患	837人	高血圧性疾患	789人	高血圧性疾患	744人	高血圧性疾患	693人
2位	糖尿病	746人	糖尿病	722人	糖尿病	707人	糖尿病	656人
3位	その他の神経系の疾患	718人	その他の神経系の疾患	676人	その他の神経系の疾患	668人	その他の神経系の疾患	600人
4位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で外に分類されないもの	692人	その他の消化器系の疾患	652人	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で外に分類されないもの	658人	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で外に分類されないもの	560人
5位	その他の消化器系の疾患	690人	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で外に分類されないもの	647人	その他の消化器系の疾患	644人	その他の消化器系の疾患	557人

◆患者一人当たりの医療費が高額な疾病

	H28レセプト	医療費	H29レセプト	医療費	H30レセプト	医療費	R1レセプト	医療費
1位	白血病	2,582千円	白血病	4,538千円	白血病	1,268千円	白血病	1,265千円
2位	腎不全	464千円	腎不全	483千円	腎不全	807千円	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	812千円
3位	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	294千円	悪性リンパ腫	416千円	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	665千円	腎不全	780千円
4位	アルツハイマー	236千円	アルツハイマー病	344千円	悪性リンパ腫	645千円	悪性リンパ腫	624千円
5位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	235千円	その他の周産期に発生した病態	339千円	脳内出血	332千円	脳内出血	583千円

【高額(5万点以上)レセプトの状況】

◆件数と割合

	H28レセプト	H29レセプト	H30レセプト	R1レセプト
高額レセプト件数	226件	253件	281件	295件
高額レセプト件数割合	0.8%	0.9%	1.0%	1.2%
高額レセプト医療費割合	30.2%	35.0%	38.1%	39.0%

◆疾病傾向（患者一人当たりの医療費順）

	H28レセプト	医療費	H29レセプト	医療費	H30レセプト	医療費	R1レセプト	医療費
1位	白血病	7,589千円	白血病	10,866千円	白血病	8,897千円	その他の呼吸器系の疾患	9,639千円
2位	脳梗塞	5,677千円	その他の呼吸器系の疾患	9,571千円	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	7,353千円	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	8,277千円
3位	腎不全	5,331千円	皮膚炎及び湿疹	6,670千円	腎不全	6,457千円	腎不全	7,356千円
4位	気管、気管支及び肺の悪性新生物(腫瘍)	4,700千円	悪性リンパ腫	5,980千円	脳内出血	6,238千円	その他の脊柱障害	6,850千円
5位	その他の心疾患	4,085千円	腎不全	5,854千円	悪性リンパ腫	6,225千円	白血病	6,342千円

3 各事業の中間評価

評価の結果、目標達成が困難と見込まれる事業については、課題や要因を分析し改善方法を検討の上必要に応じて実施内容等を見直します。

評価の中で「実績値の評価」や「事業全体の評価」は以下の区分により判定します。

	実績値の評価	事業全体の評価
判定区分	A：改善している B：変わらない C：悪化している D：評価困難	A：うまくいっている B：まあ、うまくいっている C：あまりうまくいっていない D：まったくうまくいっていない E：わからない

(1) 特定健康診査受診勧奨事業

課題	特定健診を受ける人が少なく、生活習慣病の早期発見・早期治療につながらない
目的	生活習慣病の発症を予防する
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆意向調査：2月 ◆総合健診：4月、9月、10月 ◆個別健診：通年 ◆未受診者勧奨（通知・電話）：7月～3月 ◆早期介入保健指導：30歳代健康診査の実施

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	実績値					事業全体の評価	要因と今後に向けた事業の方向性	
			ベースライン	H29	H30	R1	評価		要因	改善案 (継続・強化・修正する内容など)
特定健康診査受診勧奨事業	対象者への通知率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆受診勧奨通知だけでなく、電話勧奨を実施 ◆医療機関からの情報提供 ◆勧奨はがきをもらって受診する意識を持った人がいた ◆受診率が連続減少したことで元に戻すのが困難 	◆勧奨通知内容の工夫や電話勧奨の継続
	受診率	短期：40% 中長期：60%	38.0%	34.4%	31.5%	38.3%	B			

(2)特定保健指導事業

課 題	生活習慣病患者が多い
目 的	生活習慣を改善し、生活習慣病の発症を予防、重症化予防を目指す
取 組 内 容	<p>◆特定健診受診者で「積極的支援」や「動機付け支援」の該当者 : 特定保健指導を実施</p> <p>◆特定保健指導利用勧奨 : 通年</p>

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	実 績 値					事業全 体の評 価	要 因 と 今 後 に 向 け た 事 業 の 方 向 性	
			ベース ライン	H29	H30	R1	評価		要 因	改 善 案 (継続・強化・修正する 内容など)
特定保健指 導事業	指導実施率	50.0%	34.7%	12.5%	10.5%	5.8%	C	C	<p>◆健診結果を郵送ではなく手渡しすることでその際に結果説明をほぼ全数に実施</p> <p>◆指導する本町の保健師が少なく事業実施が困難</p> <p>◆毎年保健指導の対象になっている方が指導を拒むことがあり継続支援が困難</p>	◆本町の保健師が指導できるような体制づくり
	生活習慣改善率	向上	17.9%	25.7%	28.6%	11.8%	C			
	保健指導対象者の割合	減少	12.3%	10.7%	8.4%	9.8%	B			

(3)糖尿病性腎症重症化予防事業

課 題	人工透析患者のうちⅡ型糖尿病起因の患者がいる
目 的	生活習慣病の重症化を防ぐ
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ◆特定健康診査の検査値及びレセプトデータから対象者を特定 ◆対象者に対し、重症化予防プログラムの参加通知及び電話勧奨を行う ◆希望者は主治医からのプログラム参加確認を受けたうえで事業に参加する ◆参加者には保健師等専門職より6か月間の面談指導と電話指導を行う

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目 標 値	実 績 値					事業全 体の評 価	要 因 と 今 後 に 向 け た 事 業 の 方 向 性	
			ベース ライン	H29	H30	R1	評価		要 因	改 善 案 (継続・強化・修正する 内容など)
糖尿病性腎 症重症化予 防事業	指導実施率	25.0%	未実施	41.7%	25.0%	23.1%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆プログラムに参加した人の意識は変わっており重症化予防につながっている ◆毎年の指導者数は3~5人と少ないが、継続することで1人でも重症化を防ぐことができた ◆委託により保健指導を実施しているため予算の制限を受ける 	◆本町の保健師や管理栄養士が指導できるような体制づくり
	生活習慣改善率	100.0%	未実施	80.0%	100.0%	100.0%	A			
	検査数値改善率	80.0%	未実施	42.9%	33.3%	37.5%	B			
	新規人工透析患者割合	△50.0%	(2人)	100.0% (4人)	△100.0% (0人)	△100.0% (0人)	A			

※新規人工透析患者割合のカッコ内は新規患者数

(4)受診行動適正化指導事業

課 題	重複・頻回受診者、重複服薬者が多い
目 的	生活習慣病の重症化を防ぐ
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ◆レセプトデータから医療機関への不適切な受診が確認できる者、また重複して服薬している者を特定 ◆対象者に対し、プログラムの参加通知及び電話勧奨を行う ◆参加者には保健師等専門職より面談指導と電話指導を行う

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	実 績 値				事業全 体の評 価	要 因 と 今 後 に 向 け た 事 業 の 方 向 性	
			ベース ライン	H29	H30	R1		評価	要 因
受診行動適 正化指導事 業	指導実施率	100.0%	未実施	未実施	28.6%	32.3%	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆対象者からの相談を踏まえ専門職が指導を行うため受診行動適正化につながる ◆毎年の指導者数は7~10人と少ないが、継続することで1人でも多く受診行動の適正化につながった ◆委託により保健指導を実施しているため予算の制限を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本町の保健師が指導できるような体制づくり ◆指導実施率は対象者数から目標を30.0%と変更する
	受診行動適 正化	80.0%	未実施	未実施	83.3%	100.0%	A		
	指導完了者 の医療費	△60.0%	未実施	未実施	△69.8%	△85.7%	A		
	対象者数	△50.0%	21人	21人	21人	31人	C		

(5)ジェネリック医薬品差額通知事業

課 題	ジェネリック医薬品の普及率が低い
目 的	ジェネリック医薬品の普及率向上
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ◆レセプトデータからジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が100円以上の対象者を特定 ◆対象者に対し、ジェネリック医薬品差額通知を送付する ◆保険証発行時にジェネリック医薬品希望シールを配布

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目 標 値	実 績 値				評価	事業全 体の評 価	要 因 と 今 後 に 向 け た 事 業 の 方 向 性	
			ベース ライン	H29	H30	R1			要 因	改 善 案 (継続・強化・修正する 内容など)
ジェネリック 医薬品差 額通知事業	通知者数		259人	236人	195人	170人	A	A	◆定期的に通知することで対象者は年々減少し 切り替えが進んだ	◆ジェネリック医薬品に ついて更なる周知や、調 剤薬局との連携
	通知率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				
	普及率	80.0%	80.0%	82.1%	83.5%	85.0%	A			

(6)服薬情報通知事業

課 題	長期服薬者及び長期多剤服薬者が多い
目 的	服薬状況を把握し適切な服薬を促す
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ◆レセプトデータから異なる疾病で複数医療機関を受診し、6種類以上の薬剤を14日以上服薬している人を特定 ◆対象者に対し、服薬情報通知を送付する ◆日頃の保健活動の中で特に気になる対象者を選定し保健指導を行う

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目 標 値	実 績 値				事業全 体の評 価	要 因 と 今 後 に 向 け た 事 業 の 方 向 性		
			ベース ライン	H29	H30	R1		評価	要 因	改 善 案 (継続・強化・修正する 内容など)
服薬情報通知事業	長期多剤服薬者数	減少	187人	187人	165人	153人	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆データヘルス計画策定時は未実施であったが、医師会、薬剤師会等と連携し事業実施できた ◆保健指導時の対象者データが他事業とまとまっていないため指導が非効率であった 	◆他の保健事業のデータを一元化することで効率的に指導する
	長期多剤服薬者割合		7.5%	7.5%	7.0%	6.9%				
	指導実施率	15.0%	未実施	未実施	未実施	11.0%	A			
	改善割合	15.0%	未実施	未実施	未実施	15.0%	A			
	削減効果額		0円	0円	0円	9,614円				

(7) データヘルス計画の評価

評価視点	評価指標	現状分析				実績値評価	事業判定	今後の方向性
ストラクチャー	計画達成に向けた体制が確保され、関係者と連携が図れているか	◆体制 健康こども課保険年金係、健康推進係 福祉課地域包括支援係 ◆関係者との連携 北海道、北海道国民健康保険連合会 北海道国保連保健事業支援・評価委員会 釧路市医師会、釧路市薬剤師会 弟子屈町国民健康保険運営協議会				A	A	◆これまで実施している事業は毎年工夫しながら継続する ◆医療費分析により様々なリスクをもった人がいることがわかるが、データがそれぞれの疾病ごとに分かれているため、効率的に指導できる様、データの一元化を図る ◆後期高齢者医療へ移行前から疾病・介護予防できるよう、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を進めていく
プロセス	データを活用した現状分析と、分析結果を活用した課題抽出ができていますか	レセプトデータ、特定健診データ、KDBデータを分析し、計画の目標達成状況を確認、現状把握と課題の抽出を行っている				A		
アウトプット	データヘルス計画上の保健事業が実施できているか	実施事業 ◆特定健康診査受診勧奨事業 ◆特定保健指導事業 ◆糖尿病性腎症重症化予防事業 ◆受診行動適正化指導事業 ◆ジェネリック医薬品差額通知事業 ◆服薬情報通知事業				A		
アウトカム			H28	H29	H30	R1		
	健康寿命の延伸 (平均自立期間：要介護2までの期間)	(男)	77.8歳	77.9歳	77.6歳	77.9歳	B	
		(女)	82.6歳	82.0歳	82.1歳	82.7歳		
医療費の適正化 (一人当たり療養諸費)		350,901円	374,908円	392,178円	404,775円	C		

4 令和3年度以降の各事業の目的と概要一覧

評価の結果、既存事業の実施内容等を見直し、また、新規事業を追加し次のとおり行います。

既存／新規	事業名	事業目的	事業概要	アウトプット	アウトカム
既存	特定健診受診勧奨事業	特定健康診査の受診率向上	特定健診を受診していない者を対象者とし、勧奨通知の送付や電話勧奨により受診を促す。また、30歳代健康診査を実施する。	対象者への通知率：100%	特定健診受診率 短期：40% 中長期：60%
既存	特定保健指導事業	生活習慣病該当者及び予備軍の減少	特定健診結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話等で行う。	対象者の指導実施率：50%	生活習慣改善率：向上 保健指導対象者の割合：減少
既存	糖尿病性腎症重症化予防事業	糖尿病性腎症患者の病期進行阻止	特定健診及びレセプトデータから対象者を特定し、正しい生活習慣を身に付けることができるように専門職より面談指導と電話指導を行う。	対象者の指導実施率：25%	生活習慣改善率：100% 検査数値改善率：80% 新規人工透析患者割合：△50%
既存	受診行動適正化指導事業	重複・頻回受診者数、重複服薬者数の減少	レセプトデータから医療機関への不適切な受診が確認できる対象者、また、重複して服薬している対象者を特定し、適正な医療機関へのかかり方について、専門職による指導を行う。	対象者の指導実施率：30%	受診行動適正化：80% 指導完了者の医療費：△60% 対象者数：△50%
既存	ジェネリック医薬品差額通知事業	ジェネリック医薬品の普及率向上	レセプトデータからジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定し、差額通知書を送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。	対象者への通知率：100%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)：80%
既存	服薬情報通知事業	服薬の適正化	レセプトデータから長期多剤服薬者を特定し通知書を送付するとともに、保健指導を行う。	指導実施率：15%	長期多剤服薬者数：減少 改善割合：15%
新規	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施	①健康状態不明者の把握 ②健康知識を普及・啓発し行動変容を促す	①80歳以上の介護・医療・健診等につながない健康状況不明者の状況を把握し必要なサービスへつなげる。また、70歳以上のモデル地区にも同様に状況把握を行う。 ②年齢を制限せず健康課題をもとに通いの場等において健康教育・健康相談を実施する。	①健康状態不明者の状況確認率：80% ②ポピュレーションアプローチ実施人数：160人	①70歳以上健康状況不明者の割合：減少 ②健康教育への理解度：80%